

平成19年9月26日

各位

会社名 明豊ファシリティワークス株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 大見 和敏  
 (コード番号 1717 ジャスダック)  
 問合せ先 取締役経営企画部長 大島和男  
 (TEL. 03 - 5211 - 0066)

### 平成20年3月期 中間期業績予想(非連結)の修正に関するお知らせ

平成19年5月16日の決算短信発表時に公表した平成20年3月期(平成19年4月1日~平成20年3月31日)の中間期の業績予想を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

#### 記

#### 1. 中間期(非連結)の業績予想数値の修正(平成19年4月1日~平成19年9月30日)

(単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益
前回予想(A)	2,264	178	180	108
今回修正(B)	2,240	57	70	40
増減額(B-A)	24	121	110	68
増減率	1.1%	68.0%	61.1%	63.0%
(ご参考) 前年同期実績	3,219	209	208	119

#### 2. 中間期(非連結)の業績修正の理由

当上半期における売上高は、当初計画比約24百万円減(1%減)となる見込みであります。その内訳は、フィーと工事原価を売上高として計上するため売上高利益率の低いアットリスクCM方式等が計画比約224百万円増(18%増)、フィーのみを売上高に計上するため売上高利益率の高いピュアCM方式が計画比約248百万円減(25%減)となる見込みであります。

当上半期における粗利益(\*1)ベースの受注高は、前年同期比約15%増と堅調であり、過去最高の水準となる見込みであるものの、受注から売上計上(プロジェクト終了)までの期間が長期化していることから、当社内の利益管理指標である粗利益(\*1)ベースの売上高は当初計画比約21%減となる見込みであります。

人材の採用等については、目標通り着実に進めることができていることから、当上半期の人件費その他の経費についてはほぼ計画通りになる見込みであります。

これらの結果、営業利益57百万円(前回予想比68%減)、経常利益70百万円(前回予想比61%減)、当中間純利益40百万円(前回予想比63%減)になる見込みであります。

(\*1)

粗利益とは、当社の売上高がフィーのみで構成されるピュアCM方式と、フィー+工事原価で構成されるアットリスクCM方式等とで、その規模が大きく異なることから、当社の収益規模を管理する指標として社内で用いているものであり、売上高から社内コスト以外の工事原価を控除したものであります。尚、当社は顧客との守秘義務契約等に鑑み、粗利益を公表しておりません。

### 3. 通期（非連結）の業績予想（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

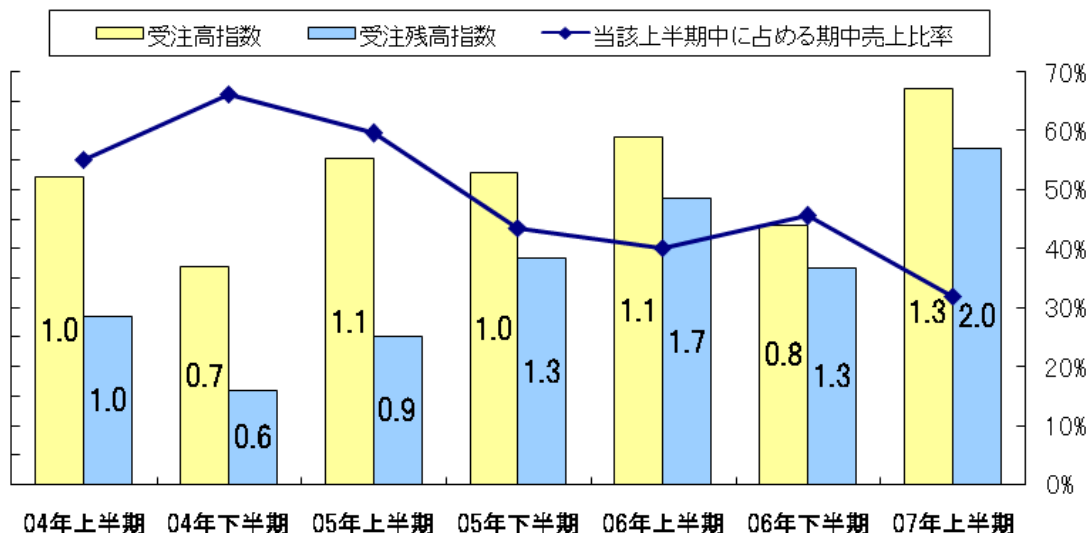
当期上半期における受注残は、前期末に比べ約55%増加しており、当期下半期において上半期の業績予想未達分（ピュアCM方式の売上高等）を計上出来る見込みであることから、通期の業績予想については平成19年5月16日公表値のまま据え置きます。

（注）

上記の予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって変動する可能性があります。

参考資料（当社内の収益管理指標である粗利益ベース）

2007年上半期の受注高は過去最高であるものの、受注から売上計上までの期間が長期化したことにより、当該上半期中の売上計上比率は前期下半期の約45%から約30%まで低下する見込みであります。これに伴い受注残高は前期末比約55%増加する見込みであります。



受注高指数：

2004年上半期の受注高を1.0とした場合の各半期受注高の割合であります。

受注残高指数：

2004年上半期末の受注残高を1.0とした場合の各半期末受注残高の割合であります。

当該半期中受注に占める期中売上比率：

当該半期中に受注したもののうち、当該半期中に売上計上したものの割合であります。

以上